

NPO法人シーズネット（札幌市北区）が運営し、高齢者向け共同住宅の実態調査などを行う「札幌・住まいるアップセンター」が入居者を対象に実施したアンケートで、約3割が事前に見学しないまま入居を決めたことが分かった。同センターは「入居後のトラブルにつながる」と複数の見学を呼びかけている。

（片岡麻衣子）



高齢者住宅は實用、サービスもさまざま

## 高齢者住宅 市内に約200軒

# 3割見学せず入居

## 施設、費用にばらつき

### NPOが利用者調査 「3軒は回って」

昨年10月、函館から札幌へ移った独身男性（69）は、食事を用意する手間を省きたいと、賄い付きの高齢者住宅を探した。条件は月10万円の年金で暮らせること。何力所か見学すると、費用が同じくらいでも、トイレ、浴室が共用だったり、部屋が汚かったりと、住宅によって違いが大きかった。

75人に行ったアンケートでは、53人（30・3%）が見学をしないまま入居を決めたと回答。69人（39・4%）は、現在の住宅だけ見学したと答えた。

最終的に入居を決めたのは、1DKにトイレ、浴室が付いた白石区の「生活館 白石いぶき」。男性は「いろいろ見学したおかげで、条件に合った部屋を見つけた」と話す。

その理由について、高齢者住宅の情報を提供する「北海道高齢者住まいの相談情報センター」住まいるサポート（中央区）の西原桂子センター長は「高齢者住宅が増え、選択肢も多様化しているのに、入居希望者がそのことを知らない」と分析する。

だが、同センターが昨年9～11月、市内の高齢者住宅の入居者1

札幌・住まいるアップセンターは2月から3月までに8回、「高齢者共同住宅の見学会」を開く。1回につき1、2軒、市内の高齢者住宅を回る。



**高齢者向け共同住宅** 「高齢者住まい法で、規模や設備など一定の基準を設けた「高齢者円滑入居賃貸住宅」登録制度などを定めている。

このため、入居後に不満を訴えるケースも多い。09年8月のオープンから昨年12月まで

「高年齢者向け共住者向け」を名乗るための法的規制はなく、部屋の広さやサービスなど、内容はそれぞれ異なる。ただ、高齢者が安心して選

参加無料。申し込み、問い合わせは同センター ☎708・8567 へ。